

第一二部

第二回 参議院治安及び地方制度委員会会議録第二十一号

(二五六)

昭和二十三年六月一日(火曜日)

本日の会議に付した事件

○消防法案(衆議院提出)

午前十時三十四分開会

○委員長(吉川末次郎君) これより委員会を開会いたします。衆議院治安及び地方制度委員会の提出にかかる、衆議院より回付の消防法案を議題に供します。衆議院治安及び地方制度委員会の提案者の御説明を願うことにいたします。

○衆議院議員(川橋豊治郎君) 只今、委員長から御提案になりました消防法案の要旨並びに内容につきまして、概要御説明申上げます。本法案の姉妹法律である消防組織法は、すでに施行されておるのであります。その一環をなすこの消防法が欠けておることは、消防の完璧を期する上から誠に遺憾の次第であります。殊に最近の火災の頻発の実情から考えましても、本法制定の一日前も早からんことを切望されておる次第であります。

本法案は、前回の國会の法案を骨子といたしたものでありまして、消防組織法が消防制度の組織を規定したのに対しまして、消防の運営方面を規定したものであります。その狙いとするところは、火災、その他災害の予防を本旨とするのでありますと同時に、從来我が國では、消防が警察の支配下にあつたものを、全然切離して独立させ、その運営上仕事が両者に跨る場合には、互いに協力する建前を取つたのであります。

昭和二十三年六月一日(火曜日)

あります。本法案は、第一章において、「消防隊」等の用語について定義し、特に危険物については別表として品名を以て社会の福祉増進を目的としており、第二章、火災の予防は、第三條から七章火災の調査、第八章補則、最後の三章危険物、第四章消火の設備、第五章火災の警戒、第六章消防の活動、第七章火災の罰則、更に危険物に對しては、第九章罰則、更に危険物に對しては、別表として添付いたしております。本法制定の上は、從來の欠陥を補い、消防の全機能を發揮し得ると同時に、消防員の活動上、一新時代を画するものと信ずるものであります。以上提案の要旨を申上げます。以下その内容につきまして、更に簡単に御説明申上げます。

第一章、総則におきましては、「この法律は、本文九章四十六條及び附則二條を加え、四十八ヶ條と別表からなつております。

第二章、火災の調査としては、「この法律は、火災を予防し、警戒及び鎮圧し、國民の生命、身体及び財産を火災から保護するとともに、水火災又は

地震等の災害による被害を軽減し、も

うして安寧秩序を保持し、社會公共の福

祉の増進に資することを目的とする。」

第三章、火災の警戒としては、「第二十二條と第二十三條を設けまして、氣象台の通報に應じて、市町村長は警戒報を發令し、必要的場合は期間を定め、たき火又は喫煙を制限することができる旨を規定したのであります。

第四章、消防の設備等といいたしまし

ては、第十七條から第二十一條に亘つて、公衆用建築物の消火、設備並びに消防の用に供する機械器具並びに設備の規格、水利施設の維持管理等に関する規定し、消火設備の過漏なきこと

を期したのであります。

第五章、火災の警戒としては、「第二

十二條と第二十三條を設けまして、氣象台の通報に應じて、市町村長は警戒報を發令し、必要的場合は期間を定め、たき火又は喫煙を制限することができる旨を規定したのであります。

第六章は消火の活動ですが、

第二十四條中には、火災発見者の通報

義務、又第二十五條には火災発生の場

合の人命救助の義務、又第二十六條と第二十七條には、消防自動車の出動と

ある場所、「舟車」、「危険物」及び

「消防対象物」、「関係者」、「關係

の定義でありまして、

本法の目的及び範囲を規定しておりますが、これは消防組織法と同一用語

の立場から言わざることがありました

の立場から言わざることありました

の立場から言わざることありました

ものがありましたら、この次までに御提出を願うことにいたしまして、質問等は次回から開始することにいたしました。」と思つております。よろしきござい

ますか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

○委員長(吉川末次郎君) そうですが、それでは消防長官から何か意見の開陳がありませんでした……。

○政府委員(新井茂司君) 消防関係におきまして、先に消防組織法が制定施行されました。この実体を成す消防法の制定実施がまだできておりませんことは、我々消防関係者として現在極めて不便且つ不徹底を感じておつたところであります。私共は消防法の一日も早く制定せられ、且つこれの実施を待望しておりますところであります。これは尙又地方における消防関係者の一様に望んでおるところであろうと私は考えるのであります。今回本国会において、消防法案の御審議をなされると当りましては、我々としてはこの法案の速かに成立することを希望して止みません。尙内容につきましては、衆議院の方面から私共は予め種々なる御相談を受けまして、私共の意のあるところも中に入れて貰つておるのであります。又中には多少問題となるべき点もないとは考えないであります。が、これらのことは私共といたしましては、必ず消防法の成立を速かに見ることが第一要件であります。内容の改善ということは、逐次実施の成績によつて行なおうという方法も一つの方であるといふうに考えておる次第であります。要するにこの消防法の実施を速かに見るようにして頂いて、

そうして消防の発展強化を図りたい

と、かように考えておりますので、一言申上げて置きたいと思います。

○委員長(吉川末次郎君) 尚先般我々の委員会で講説いたしまして、御配布申上げましたアメリカの消防行政に関する活版刷りの冊子、尙以前消防組織法を審議します場合に「英米の消防制度」と題する内務省警保局消防課で作りました資料、それから消防園令及び進駐軍よりの日本の消防組織に関する文書等の資料を受取つておりますが、尙それ以外の資料等につきまして提出を求められるものがあります。が、尙それ以外の資料等につきまして提出をお出しを願いたいと存じます。別にございませんか……。あなたの方方にこれ以外に貰うような資料はありますか、若し参考になるようなものがありましたら、衆議院側の方からも、消防廳側の方からも、一つこの次までにお出しを願いたいと思します。本日はこれで散会いたします。

午前十時五十二分散会
出席者は左の通り。

委員長 吉川末次郎君
理事 中井 光次君
委員 羽生 三七君
鈴木 直人君

委員

大隅 憲二君

黒川 武雄君

奥 主一郎君

岡本 愛祐君
小野 哲君

阿竹賀次郎君
川橋豊治郎君

衆議院議員
政府委員

新井 茂司君